

令和2年度 県立鉾田第一高等学校自己評価表

目指す生徒像	高い知性, たくましい気力, 礼節を重んじる人間性を備えた生徒 グローバルな視点と行動力を持った生徒		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>センター試験最終学年であるための安全志向から, 推薦入試・AO入試での進路決定者が多くなり, 最後まで第一志望を目指し, モチベーションを維持し続けることが難しかった。将来の在り方生き方を含めた進路決定のため, きめ細かい対応が必要である。</p>	基礎学力・授業の質の一層の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題テスト」の年間30回実施を継続し, 基礎学力を定着させる。 ・入学当初の「授業ガイダンス」や「自学自習週間」を通して学習習慣を身につけさせ, シラバス利用や学習法の具体的な指導を継続し, 平日の最低学習時間＝学年＋1時間を目指す。 ・基礎基本を定着させるとともに, 発展的学習や学校設定科目の内容を充実させる。 ・授業力向上のため, 教員間の授業観察と校内授業研修を推進し, 職員の指導力及び授業の質の向上につなげる。 ・指導力向上のため, 職員が外部講習等に積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な方策については, いずれも滞りなく行ってきた。 ・生徒の家庭学習時間の増加については, 家庭学習課題を工夫するなど対策していく必要がある。 ・教員の授業力向上のために, 多くの先生が他校への授業見学やwebを活用しての視聴教材等を活用し研修を行い指導力向上につなげてくれた。
<p>学習状況調査の結果から, いかに家庭学習時間を増加させるかという方策を講じなければならぬ。良質な授業提供のための組織的な研修等を充実させ, また自発的な家庭学習を充実させる指導法など学力向上のための工夫が必要である。</p>	個に対応した指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業の指導方法, 指導内容を充実させる。 ・少人数授業の効果を高めるために担当者間の連携や, 授業方法の創意工夫を積極的に行う。 ・特別な支援を必要とする生徒の指導に対応する研修会を通して指導スキルの向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業や少人数授業において丁寧な指導を行い, 生徒の学習意欲及び学力の向上に努めた。 ・新教育課程の検討を通して, カリキュラムマネジメントを進めた。 ・特別な支援を必要とする生徒の対応についての研修を行った。
<p>運動部, 文化部ともに活発に活動しており, 県大会・関東大会・全国大会で活躍した。生徒の主体的活動を促すHR, 委員会活動, 学校行事等の活動内容の充実が必要である。</p>	進路意識・進路実績の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「山王プロジェクト」を基盤として, 職員が指導力を高め, 生徒の進路意識高揚や進路目標達成につなげる。 ・各年次の進路行事の意義を十分に指導し, 自己の在り方生き方について考えさせる。 ・生徒との個別面談を充実させ, 進路目標を明確化させる。 ・大学説明会や入試分析会等に積極的に参加し, 収集した正確な情報を進路指導に活用する。 ・国公立大学・難関私立大学の合格者数増を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各年次の進路行事は, 新型コロナ感染予防のため, 実施形態を変更したものもあったが, 概ね予定通り実施され生徒の進路意識の高揚につなげることができた。 ・大学説明会や入試分析会はリモートで実施されることが多く, 3年次と協力して情報収集に努めた。
<p>概ね落ち着いた生活環境を整えることができたが, 制服の着こなし方や, スマホ利用のルール・マナー等の継続的な指導が必要である。全職員の共通理解</p>	特別活動・部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への積極的参加を促し, HR・生徒会・委員会の活動で主体的に取り組み, 社会に貢献できる人材, グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 ・部活動においては, 県大会以上の大会に出場できる部や生徒数を増や 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で例年の行事は大きく制約を受けたが, 実施可能な方策を模索しいくつか行事は形態を変えて行うことができた。

<p>を図り、全校的な取り組みと共に、目指す生徒像に向けた指導を充実させる。</p> <p>情報発信量は増加したが、まだ最新のデータが外部に的確かつ速やかに伝えられていない場合がある。学校評議員制度の活用やホームページやアンケートなどの広報広聴活動を工夫する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> す。 学校行事後に感想をまとめたりキャリアパスポートを利用したりすることにより、学びを蓄積するとともに振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大会そのものが減ったにもかかわらず、各部とも数少ない機会を捉えて積極的に出場し、好成績を収めた。
	マナーや規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が共通理解を持って指導にあたり、生徒が率先してルールやマナーを順守できる態度を育てる。 ・全体的な取り組みと合わせて、生徒個々に対応した指導を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止の中でも、概ね目標は達成できていた。 ・生徒に寄り添った対応指導ができた。
	学校評価の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、外部評価の内容や評価方法・評価対象等を検討する。 ・学校評議員制度などを通して家庭・地域社会の本校への要望や期待を把握する。 ・ホームページやアンケート等の広報広聴活動をさらに工夫し、充実させ、学校を活性化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート等により、生徒保護者の本校への評価を把握、検討し、学校運営に活かせるよう連携を図りたい。 ・ホームページ、フェイスブック、YouTube動画を活用し、本校の魅力を積極的に発信することができた。
	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を適切に配し、効率的な計画・準備を実施する。 ・業務を進める際には、終了時刻を明確にし、業務改革を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担を適切にし、目標時刻内に業務完了できるよう推進した。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国語	・学習課題の明確化と基礎学力の定着	・シラバスを活用し、目標に沿った授業を展開する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいた各小テストの実施により、基礎学力の定着を図ることができている。 ・授業の補助教材や長期休業中の課題として副教材を活用してきたが、学習内容の定着が十分とは言えず、活用方法について検討の必要がある。 ・各年次や図書館部との連携はスムーズに行うことができた。小論文の指導も分担して指導する体制を構築している。 ・読書感想文は質の低下が見られるため、読書指導には検討の余地がある。
		・基本的事項を確認するため、小テストを実施する。	A	
		・長期休業等を利用した課題の実施で、学習内容の定着を図る。	B	
		・教科内研修会を実施し、指導力および授業の質の向上につなげる。	B	
	・読解力の養成	・文章を考察し、分析する力を養成する授業を展開する。	A	
		・授業や課題を通して、様々な文章に触れることで、国語への関心を高め、主体的に学習に取り組む生徒を育成することに努める。	A	
		・副教材を活用し、評論用語や古典文法など読解に必要な知識の定着を図る。	A	
	・表現指導の充実	・文章を要約したり、意見を述べたりする活動を、授業や課題に取り入れる。	B	
		・各年次と連携し、小論文の指導を展開する。	A	
・図書館部と連携し、読書感想文コンクールへの参加を促す。		A		
地理歴史 公民	・休校期間中の学習補完	・臨時休業期間中の学習内容を明確に指示し、有益な動画等を紹介することで、自学学習を支援する。質問には個別で対応し、再開後の授業で学習内容のポイントや重要点を確認する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休業等によりシラバス通りに進まないものがあつたが、授業確保と工夫によって遅れを取り戻すことができた。 ・全年次とも、より生徒の興味関心が高まる
	・基礎的内容の理解の徹底と	・1・2年次では「授業第一主義」のもと、学習態度を涵養し、基礎的知識の確実	A	

	授業方法の研究	な習得を図り、思考力・判断力・表現力の育成に努める。		<p>ような教材開発や時事問題考察など、一層の発展を図りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年次では教科書に基づいた授業を展開して基礎の習得を図った。今後も科目間で同内容を学習する際は、担当者間で打ち合わせのうえ進める。 ・3年次では問題演習を多く取り入れ、知識の定着や応用力の涵養に努めた。模試の他校間比較から低調な科目も見られたので、授業では基本・基礎事項を再確認させ、模試・共通テストに向けて偏差値60以上の層や54前後の層を増やしたい。
		・3年次では「授業第一主義」のもと、土曜講座・課外授業・後期時間割・学校設定科目を通して、個の進路に応じた学力向上に努める。	A	
		・小テストを実施して知識の定着を図り、生徒の理解力を把握しながら授業を計画する。	A	
		・科目の特性に応じた教材の創意工夫に努め、「分かりやすい授業」の展開に努める。	A	
		・教員研修講座等の受講や定期考査等の作問方法の工夫を通し、共通テストに向けての対策・指導方法の研究を行う。	A	
	・進路実現を図るため、担当者間による模擬試験結果の分析を行う。	B		
・現代の社会への関心を高めさせる。	・テーマを定めた主題学習を展開し、現代社会への興味関心を高めさせる。		B	
数学	・きめ細かな授業の展開	・1年次における少人数授業の実施により、目の行き届いた丁寧な指導を実践し高校数学の基礎固めをする。	A	<p>・1, 2年次の少人数授業では、丁寧な指導を行ってきたが、考査で点数のとれない生徒のために、考査後の復習や考査前の対策として、放課後の補習課外を数日間かけて行っている。</p> <p>・3年次では、朝プリ（毎日配布のプリント）を活用し復習を継続して行っている。また上位層に向け水曜課外を実施し、学力向上を図っている。また、生徒の受験科目に応じたクラス分けを行い受験型に適した授業を展開している。</p> <p>・学習習慣の確立においては、1, 2年次ともに、毎週の課題により学習した事柄の定着を図っている。</p> <p>・1, 2年次では、指導効率を高めるために、考査後に習熟度別グループを編成して対応している。引き続き、習熟度別授業や個に応じた指導のメリットを活かせるような取り組みをしていきたい。</p> <p>・3年次では、11月以降は大学入学共</p>
		・2年次において少人数授業を実施し、きめ細かな授業を行う。	A	
	・家庭学習習慣の確立 応用力の養成	・1年次では課題だけではなく、毎日の復習にも教科書傍用問題集（アドバンス）を積極的に取り入れ、基礎の定着を図るとともに応用問題にも慣れさせる。	B	
		・2年次では参考書（黄チャート）を授業に取り入れ、演習の時間を多くとり、また定期的に傍用問題集（アドバンス）の課題を提出させ、基礎力と応用力を身につけさせる。	B	
		・3年次の数学ⅡBにおいては、文系理系それぞれの教材からの課題を自ら解くことにより、家庭学習時間の増加と学習内容の定着を図る。 ・センター対策の自習プリントを配布し、数学ⅠAⅡBの基礎力向上を図るとともに、すき間時間の活用を促す。	B B	
	・習熟度、進路希望に応じた指導	・2年次の数学ⅡBにおいて文系：教科書の基本事項、理系：教科書～参考書（黄チャート）の内容の定着を目標とし、習熟度に応じた指導を徹底する。	A	
		・3年次では、3・4組、5・6組をそれぞれ3分割、7組を2分割し、受験型（ⅠA・ⅡB・Ⅲ）に対応した授業を展開する。	A	
	・意欲ある生徒への指導	・1年次では、土曜講座や長期休業中の課外授業において難度のやや高い問題を精選・提供し、意欲ある生徒の数学力の伸長を図る。	A	
		・2年次文系では、土曜講座において数学ⅠAの演習を行い、基礎力を固める。理系では、土曜講座において習熟度に応じて基礎の確認から応用問題までを精選・提供し、意欲ある生徒の数学力の伸長を図る。	A	
		・3年次理系の数学Ⅲ選択者に対しては、数学研究Ⅲと併せて一貫して数学Ⅲの実	A	

		力養成を図る。			通テストを見据えた実践的な問題演習を行い、実力の向上を図っている。 ・1・2年次では、土曜講座を通して上位層を伸ばすための模試・入試に向けた指導を行っている。 ・3年次では、自習用の大学入学共通テスト対策プリントや模擬試験過去問を用意し意欲ある生徒の数学力伸長を図っている。 ・質問対応は、担当年次の枠を越えて指導を行っている。 ・YouTube やGoogle Classroom等を介した授業動画の掲載、スタディサプリの活用、附属中におけるオンライン授業等を実施した。
		・放課後等に質問に訪れる生徒には担当年次の枠を越えて随時対応する。数学研究室をその環境として整備する。	A		
	・指導技術の向上 指導方法の工夫	・担当年次の枠を越えて日頃より各種問題の解法についての研究や意見交換を行い、指導力の向上を図る。	A		
		・授業参観を相互に行い、指導方法の工夫を研究する。	B		
	・新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休校期間中の対応	・定期的にホームページやGoogle Classroom等で課題を提示し、学習習慣の定着を図る。 ・授業動画やオンライン授業を実施し、質問がある生徒にも適切に対応する。	A		
理科	・学力の向上	・生徒に必要な学力を身に付けさせるために、授業を工夫し、土曜講座などの課外を充実させる。	A	A	・土曜講座を通し、入試のための演習量を確保することができている。 ・内容を精選し、生徒実験や演示実験を行うことができている。 ・附属中の授業に向け設備備品を整備し、実験器具の整理整頓を行った。 ・指導主事訪問をきっかけに、ICT教育の取り組み方について様々な方策を検討できた。
	・設備、備品の充実	・各科目で内容を精選し、充実した実験・実習を実施する。	A		
		・実験・実習による学習によって、体験させて興味関心を持たせ、学習意欲を持続させる。	A		
		・設備備品を徐々に整備し、学習環境を良いものにしていく。	B		
・指導力の向上	・新テストに対応できる授業のあり方を研究する。	B			
保健体育	・体力向上を図る。	・新体力テストの総合評価を伸ばす。	B	A	・長期休業による体力低下を防止するため、授業で体力向上のための学習時間を設け、継続的に取り組んだ。 ・自宅学習期間中の体力の低下を鑑み、また感染症対策を念頭に置いたなかで、例年と違う授業展開を工夫して行うことができた。
		・生徒の運動時間を確保し、自ら体力を高める学習の工夫を行う。	A		
	・選択授業の充実を図る。	・選択授業を通して運動の楽しさを実感させ、自主的・自発的に活動できる能力を養う。	A		
	・規範意識の遵守	・授業を通して、ルールやマナー及び時間を守る態度を養う。	A		
	・副教材を利用した授業の工夫	・保健ノート、パワーポイント、DVDなどを活用し、わかりやすい授業の展開を図る。	A		
芸術	・主体的表現活動	・授業への積極的参加を促す。 (視聴覚教材等を利用して分かり易い授業の展開を図る。)	A	A	・授業への積極的参加ができた。 ・シラバスの内容を一部割愛。感染予防を考慮した授業形態で進めた。 ・丁寧な個別指導を実施することによ
		・シラバスを活用し、次の課題に対する準備を促す。 (忘れ物等しないよう注意する。)	A		

	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術を愛好する心を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の力を伸ばす。 (個人指導の充実を図る。添削や助言等手本を示す。) (実技だけでなく鑑賞の能力を高める。) 	A		<ul style="list-style-type: none"> り個々の力を伸ばすことができた。 ・自己表現及び創造力の追求をさらに進めたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・自己表現及び創造力の追求 (より上位をめざす者へのフォローを補習などで確実に行う。) 	A		
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを活用し具体的目標を意識させた学習習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを活用し、主体的に生徒が学習できるようにする。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画表に則り、授業展開ができた。 ・1年次：英単語や基本文法事項の定着に努めた。 ・2年次：リスニング対策及びアウトプット活動を積極的に取り入れ、4技能を統合的に伸ばすことに努めた。GTECは12月に全員受検で実施した。 ・3年次：1年次から継続している模試・定期テスト直しが定着し、自己の弱点を生徒自身で見つめ、克服できるよう努めた。実践的な問題も扱い、得点につながるよう取り組んだ。 ・成績下位者へのフォローは、各年次工夫して行った。 ・模試や過去問を有効に活用した指導を行った。 ・模試の結果については、達成できていない部分を達成できるように努めた。 ・教科内での情報交換は密に行った。 ・指導力向上のために、各教員が積極的に研修を受けた。 ・新教育課程に対応した授業への円滑な移行およびICTを活用した授業に向けての取り組みがさらに必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容をさらに充実させ、生徒にとっては利用しやすく教員にとっては指導目標が共有できるものとする。 ・意欲的に英語学習ができるよう英検、ALTの活用を促す。 ・課題テストを年30回程度実施し、学習の習慣化を一層図る。 	B		
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様な学力に応じた指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次：少人数授業の利点を生かし、予習・授業・復習のサイクルの確立を図る。新テストでも必要とされる4技能を総合的に伸ばせるよう、活動と指導法の創意工夫に努める。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> ・2年次：各科目で課題を工夫し家庭学習につなげるとともに自立学習できるよう促す。「話す」・「書く」のアウトプット活動を行い適切に評価することで4技能を総合的に伸ばすことに努める。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・3年次：家庭学習と授業を接続し、科目の特性に応じて、予習・授業・復習のサイクルをまわすことで、主体的な学習スタイルを確立する。入試を見据えた実践問題も多く扱い、英語得点力の向上に努める。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・成績下位者へのフォローを補習などで確実に行う。 	B		
	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストを想定した指導の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・受験者数がここ数年240名前後と固定化し、それに応じた個々の指導の工夫を模索する。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストの得点率が70%以上の生徒が多くなるよう、模擬試験等を有効に活用しながら指導する。 	A		
	<ul style="list-style-type: none"> ・受験に対応した実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の目標校の問題傾向を意識した指導、問題演習を行う。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年次では、進研模試における全国偏差値を年度初めからプラス5以上伸ばすことを、3年次では60以上を30人以上、55以上を60人以上に引き上げることを目標として指導を行う。 	B		
<ul style="list-style-type: none"> ・教科内で情報交換を深め、3年間の指導目標を共有し、3年間を見通した上での指導が展開できるよう協力し、同時に各人が個々の指導力の向上を目指す。 		A			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業における効果的な指導法・評価方法について、研修会参加等を通じて研鑽・研究を進める。 		A			
<ul style="list-style-type: none"> ・英語4技能の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「聴く・話す・読む・書く」の4技能包括型活動を積極的に取り入れた授業を1, 2年次で実践する。 	B			

		・3年次では特に論理的に考え、社会的な事柄について英語で表現する能力を伸ばす。			
家庭	・生活に関する基礎的知識と技術の習得	・生活に関する情報を授業に積極的に取り入れ、社会の変化に対応した知識と技術を身につける。	A	A	・生活に関する知識や技術を習得させるために、生徒の実態に応じた、新型コロナウイルス感染症予防に配慮した実習を取り入れた授業を、展開していきたい。 ・選択科目では進路希望に応じた実験実習を取り入れて授業を展開していきたい。
		・生活実態に応じた実験・実習を多く取り入れ、日常生活に応用できる知識と主体的に行動できる力を養う。	A		
	・進路希望に応じた生活技術の向上	・学習ノート等を活用し、授業の記録を工夫させ、社会的問題に対応する意見をまとめる力を養う。	B		
		・選択科目では生徒の興味・関心や進路希望に応じた実験・実習を多く取り入れ、希望進路実現を援助する。	A		
情報	・情報活用能力の育成	・表計算ソフトや文書作成ソフトを用いて、様々なデータを扱う上で最小限心得ておくべき資質を身に付けさせる。	A	A	・情報モラルの基礎知識を取得させ基本的な操作を習得させることができた。次年度も引き続き情報モラルや情報技術についての理解を深める活動を行う。
	・情報セキュリティ意識の向上	・情報活用に関する興味関心を持たせるだけでなく、情報化の負の部分に配慮し、情報モラルやセキュリティに対する意識を涵養する。	A		
教務	・授業時数の確保	・授業時間を確保するとともに、曜日毎の授業時数の均等化を図る。	A	A	・引き続き、曜日及び時限毎の記録を取り、授業時数の均等化に努める。 ・新学習指導要領の施行に向けて、生徒に最適な教育課程を検討する。 ・行事の見直しや実施の工夫をし、授業時間の確保に努める。 ・少人数、習熟度別、ICT活用等、効果的な指導法の研究を進める。 ・情報管理部と連携し、記載項目の変更に対応していく。 ・COVID-19の感染状況を踏まえ各種行事の計画を行う。
	・進学重視型単位制の充実	・各教科と連携し、生徒の学力や進路志望に即した教育課程を研究し編成する。	B		
		・少人数授業におけるグループ編制を工夫するなど、より効果的な授業展開の方策を研究し、生徒の学力向上を図る。	B		
	・行事等の円滑な運営	・各分掌とのコミュニケーションを密にし、学校行事の日程やそれに伴う日課の調整を行い、学校運営を円滑にする。	A		
	・成績等の円滑な処理	・情報管理部と連携し、統合型校務支援システムを活用した成績処理や各種帳票類の作成を円滑に進める。	A		
	・緊急事態への柔軟な対応	・緊急事態においても、上記4項目が一定水準を保ち遂行できるよう随時年間行事予定や年間指導計画を見直すなど柔軟に対応するとともに、想定される事態においては迅速な対応がとれるよう校内の環境整備を進める。	A		
広報広聴	・本校の魅力や生徒の活動を積極的に発信し、附属中を含めた「銚一ブランド」の確立を目指す。	・スクールポスター（3種類）の作成 ・中学校訪問の実施 ・進学フェアへの参加	A	A	・6月：スクールポスター、チラシを作成、各所を訪問、配布（オープンキャンパスの情報なし） ・8月：オープンキャンパス宣伝用ポスター、チラシ作成、各所を訪問、配布 ・情報管理部によるYOUTUBEチャンネルの開設を受け、学校紹介動画を作成・HP
		・オープンキャンパス（中学生対象）の企画、運営 ・学校公式ホームページの内容の充実	A		
	・本校に対する外部の声を広く集める。	・学校評価アンケートの実施、集計、分析	A		

					掲載 <ul style="list-style-type: none"> ・9/26：オープンキャンパス実施。4部構成で体育館実施 ・10月：ポスター1種類作成。各所を訪問、配布 ・10/18：進学フェアに参加 ・公式HP、FBを随時更新 ・12月：学校評価アンケート実施
指導研修	・学習習慣の確立 (平日の最低家庭学習時間 学年+1時間の確保)	・全生徒対象学習ガイダンス、1年次生自学自習週間（4日間）の実施	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の課題を踏まえた計画に基づき実行することができた。 ・教職員研修会については年1回の予定としていたが、コロナ対策としてのGoogle Classroom活用の研修を増加した。 ・授業研究については「ちょっと見」参観の推奨が必要である。 ・学習状況調査や授業アンケート実施後の、分析や効果的な対策をすすめていきたい。
		・生徒がより利用するシラバス作りの推進（年次・教科との連携）	A		
		・シラバス利用アンケート調査の実施（年1回・授業アンケートと同時）	B		
		・学習時間調査の実施（年1回）	B		
	・効果的な学習指導法の研究と 実践学習習慣の確立	・「授業評価」（授業アンケートの実施、「授業参観メモ」の配付）	A		
		・「教科内授業研究」を年2回実施	A		
		・「教職員研修会」を他分掌とも企画し、年2回実施	A		
		・Google Classroomを用い、自宅学習の援助および授業での活用の推進	A		
情報管理	・持続可能な情報環境の維持と 情報資産の有効利用	・効率的な運用と管理・・・事務室との連携 教員セグメント 普通教室及び特別教室セグメント パソコン室セグメント	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムは教職員のご協力のもと大きなトラブルもなく運用できている。 ・緊急情報メールは、必要に応じて適切に運用を行っている。 ・共有ドライブも大きなトラブルもなく正常に動作している。 ・年度初めに生徒全員分の教育情報ネットワークのアカウントを発行した。
		・各セグメントのソフトウェアのバージョンの統一を検討する。	A		
		・緊急情報メールシステムの有効な運用に努める。	A		
	・各種データベースの保守・・・年次・関係分掌との連携 校務支援システム 進路情報システム 蔵書管理システム	A			
・情報セキュリティの実施手順に沿って、情報機器等の扱いに関する内規等を整備する。					
・教員研修の充実	・個人情報管理研修を実施し、個人情報管理ガイドラインの運用上の問題点に対応する。	B			
生徒指導	・生徒が安心して安全に学習活動・部活動に取り組める生活	生活関係		B	<ul style="list-style-type: none"> ・制服の着こなし方に関しては、男子は良好、女子は短ソックスの着用、ワ
		・各年次と連携して、服装・頭髪の指導の徹底を図る。	A		

	<p>環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣とルール・マナーを守る態度を育てる。 各年次及び各部と連携した生活指導を図る。 	・集会等でルールやマナーについての意識の啓発を図る。	B	<p>イシャツ一番上ボタンを掛けずにネクタイをしている、ブレザーの前ボタンを掛けない生徒が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 登校指導等の協力のお陰で、特に大きな問題等は発生しなかった。 	
		・登校指導を実施し、制服の着こなしや挨拶の励行を徹底させる。	A		
		・さわやかマナーアップ運動を通して、マナー・モラルを身につけさせる。	A		
		・遅刻カードを活用し、遅刻の減少と時間を守る意識を育てる。	A		
		・貴重品の管理及び移動教室時の施錠を徹底させる。	B		
		・スマートフォン・携帯電話の使用は、ルールやマナーを守らせる。	B		
	<ul style="list-style-type: none"> 非行や事故の未然防止と早期発見に努める。 	交通関係			<ul style="list-style-type: none"> 交通事故発生件数は6件あり、昨年度よりも3倍に増加してしまった。今後もHR等を利用して、継続的に交通安全に対する意識を啓発していきたい。 各種予防教室等は、新型コロナウイルス感染拡大防止により全て延期となったが、変更計画予定通りに全て遂行することができた。
		・原付バイク免許取得届けの徹底と無許可登校をなくす。	A		
		・交通指導の実施。	A		
		・原付バイク実技講習会の実施。	A		
・自転車点検及び交通安全指導の実施。		A			
問題行動未然防止対策					
・被害調査を実施し、問題行動の早期発見・初期対応に努める。		A			
・インターネット安心安全利用講座の実施。		A			
・喫煙予防教室の実施。		A			
・薬物乱用防止教室の実施。	A				
・交通安全講話の実施。	A				
教育相談	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な生徒の早期発見 	・『相談室だより』などによる生徒・保護者への広報	A	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 『相談室だより』による広報、アンケート等、計画通りに実施できた。 援助が必要な生徒への面談については日常的に行い、スクールカウンセラーや保護者、担任と連携を図って支援を行っている。 新型コロナウイルスの流行により、校内研修会の実施、外部研修会の参加ができなかった。次年度は感染症対策を考慮して実施していきたい。 	
		・「教育相談アンケート」の実施と、その結果の分析・検討	A		
		・年次会議での情報収集	A		
		・生徒情報の整理と関係者によるミーティング	A		
	<ul style="list-style-type: none"> 適切な援助活動の実施 	・援助が必要な生徒との面談・必要に応じて保護者との面談	A		
		・保護者、校内関係者間の円滑な連携の援助	A		
		・スクールカウンセラーとの連絡、調整	A		
		・特別な支援を要する生徒についての情報交換及びケース会議	A		
	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談研修 	・校内研修会（各部との連携等）の計画と実施	B		
		・外部で行われる研修会の紹介と参加	C		
キャリア支援	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した体系的な進路指導の実施 	・定期的に部会を行い、年次を超え、3年間を見通した進路行事の運営について調整する。	B	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症予防のため、外部講師を招いての行事を自粛してきたため、大学出張講義は動画視聴に替えて実施した。職業講話は講師を県内在住者に絞って実施した。次年度の行事については、感染症対策を考慮し実施方法について検討していきたい。 	
		・1年次では進路講演会・職業講話等を通して進路適性の把握と職業観の育成に努め、進路実現のための視野を拡大させる。	A		
		・2年次では進路講演会・大学出張講義・卒業生と語る会等を通して学部学科研究などの進路知識を拡大させる。	A		
		・3年次では進路検討会議等を通して生徒の進学希望を各教科担当者間で共有し指	A		

		導に活かすとともに、面接・小論文指導等を充実させ、生徒の多様な進路目標実現を支援する。			<ul style="list-style-type: none"> ・3年次の推薦入試希望者が例年より多く、全職員の協力もとで小論文指導と面接指導を行った。 ・年次毎に模試の分析を行い、全職員で情報を共有することが出来た。公開会場実施で計画していた模試については、校内実施に切り替え実施した。 ・共通テストには248名の生徒が出願した。全員第一日程での受験での出願となった。早期に進路が決定している生徒の指導について、検討する必要がある。 ・家庭学習の習慣化については継続的な指導が必要である。 ・土曜講座は計画通り実施することが出来た。
・進路情報の収集と提供		・各年次や教科で模試結果の分析を行い、指導上の課題を明確化するとともに、職員間で情報の共有化を図る。	A		
		・生徒面談等を通して、生徒の動向の把握に努め、適切な情報提供を行う。	A		
		・高大接続改革や共通テストに関する情報の収集と分析を行い、対応を検討する。	B		
		・『進路資料』や『進路便り』の発行や情報誌の配布などを通して、生徒・保護者に適切な進路情報の提供を行う。	B		
・学力向上		・平日の家庭学習時間「学年数+1時間」、休日の家庭学習時間「学年数+2時間」を最低ラインと位置づけ、家庭学習計画表等を活用しながら、家庭学習の習慣化を図る。	C		
		・放課後・長期休業中の課外や土曜講座等の特別講習の充実を図る。	B		
		・授業力向上のため、長期休業中に実施される教育研修などへの参加を勧める。	A		
・学習環境の整備		・平日や休日に自学自習の場として尚志館を開放し、生徒の自学自習の習慣化を図る。	A		
・附属中学校との連携		・附属中学校と連携し、中高一貫の進路指導の方法について検討を進める。	B		
特別活動	・学校行事の改善	・各種学校行事の内容の一つひとつを丁寧に検証し、本校として実現可能な魅力ある行事の実践に努める。また、すべての行事において、生徒が主体的に企画・運営に関われるようにする。また、キャリアパスポートを利用し、学びの蓄積および振り返りを行う。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により山王祭、野球応援は実施できなかった。クラスマッチは全校では行わず、まず3年次単独で先行して行い、1,2年次および附属中はその後に行うことにした。また生徒総会や生徒会役員選挙演説会は放送で行った。 ・生徒会が山王祭検討委員会をはじめ各委員会と連携することができた。 ・コロナ禍での行事の見直しと実施可能な方法のさらなる検討が必要である。 ・年度始めの約2か月間休校となったこともあり、部活動加入率は例年と比べやや低くなっている。部・同好会紹介等の工夫が課題である。
	・生徒会活動の活性化	・生徒会役員が生徒代表としての自覚を持ち、各種行事の開催にあたってリーダーシップを発揮し、他の生徒を啓発し牽引できる力を育てる。また、附属中との連携を図る。	C		
	・委員会活動の活性化	・各種委員会の活動内容を見直すとともに、学校行事や日々の学校生活の中に各種委員の活動の場を積極的に設け、活用する。	C		
	・部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・部・同好会への加入率80%を達成できるように、部・同好会紹介等の充実と本校伝統の「文武不岐」で啓発する。 ・それぞれの部・同好会が特性を活かし、各種大会・発表の場に参加し、活動範囲を広げられるよう支援する。 ・日々の活動や生活の中に規範意識を持つとともに、互いに協力し合う精神を育てる。また、活動場所の整理整頓を常に心がけ、活動環境を整備美化する。 	C		
	・HR活動の充実	・学校行事や進路指導に伴うHR活動だけでなく、レクレーション等、各HRならではの独創性のある活動計画を立て、それらの活動を通して協調性や団結心を養う。	A		

保健安全	・保健衛生的習慣の確立	・健康診断の実施による健康把握と適切な保健指導の実施	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・重点項目に対する重点目標は遂行することができた。 ・新たに保健室専用メールを開設し、保健室対応マニュアルの更新も行った。 ・環境衛生点検後の補修や改善は、順次実施している。 ・来年度に向けては、危機管理マニュアルの改訂をすること、および清掃活動の円滑な運営を工夫したい。
		・日常的な保健相談活動の実施	A		
		・保健室の円滑な運営の実施	A		
	・清掃活動の徹底	・日常的な清掃活動（校舎内外の美化・環境問題への意識高揚）	B		
	・防災意識の高揚	・防災訓練の実施	B		
	・環境衛生の整備	・環境衛生点検の定期的実施	A		
	・学校欠席者情報システムへの報告	・各年次、各担任と連携して実施	A		
	・日本スポーツ振興センター保険の活用	・各部、各学次との連携により有効な活用	A		
・放射線の測定	・放射線の定期的な測定と報告の実施	A			
図書館	・教育課程等の展開に即応した資料を充実させる。	・図書館部予算を的確に執行する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・予算、図書の購入は順調に的確に執行している。 ・先生方の協力のもと、資料の収集に努めている。購入希望調査は6月に実施した。随時希望に応じている。 ・読書感想文コンクールには1年次生が参加した。県に3編応募し、3編とも入選した。 ・6月の生徒図書委員県東地区研修会と12月の生徒図書委員中央研修会は、コロナ禍により中止となった。 ・例年通り、図書館報2回、新着図書案内やミニ図書館報を隔月で発行している。 ・文化祭が中止のため、古本市は実施できなかった。 ・読書関連のイベントとして、「ハロウィン福袋」「図書館総選挙」を行った。季節や行事に応じたテーマ本の展示、館内装飾も行った。
		・購入希望図書の調査を実施する。(教員・生徒対象)	A		
		・より良い図書を選定するための情報収集を行う。	A		
		・小論文関連の情報と資料を更に充実し、年次・教科・キャリア支援部等の体系的な小論文指導に積極的に関わる。進路実現のための小論文模試や講演会等にも備え、関連図書リストも更新する。	B		
	・読書、鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養わせる。	・読書感想文コンクールへの応募等を、国語科と連携して実施する。	A		
		・読書会等、読書関連のイベントを企画する。	B		
	・図書館の正しい利用の態度を身に付けさせ、自学自習の場としても利用させる。	・図書館の正しい利用の態度を身に付けさせ、自学自習の場としても利用させる。	B		
		・各年次とも協力し、自学自習の場としての静粛と秩序が保たれるよう努力する。	B		
	・生徒図書委員活動を通して、生徒の自主性を養わせる。	・部職員の指導の下、委員会活動を活発化する。	B		
		・図書館報・ミニ図書館報・図書館の展示等に、生徒図書委員を積極的に関わらせ、より新鮮なものにする。	A		
・図書館管理システムを更に整備し、利用について即応性を向上させる。	・バーコード管理システムを更に充実し、入力・装備の整備等を実施する。	A			
	・規定に則り、図書の合理的廃棄作業を進め、図書資料の更新に努める。	C			
・その他	・12月実施予定の生徒図書委員中央研修会に本校生徒を積極的に参加させ、本校図書委員会活動を充実したものにする。	E			
通学支援	・スクールバスの円滑な運行支援と生徒の安全な乗降確保	・生徒の乗車希望調査を綿密に行い、銚田二高、委託バス会社さらに校内各組織と緊密に連絡をとりながら、限られた運行条件・運行資源のなかで最大限乗車需要に応えられる運行計画の策定と適切な案内・安全を保つ乗降指導を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・緊密な連絡については概ねとれていたが、限られた運行条件のなかで需給ギャップをうめる運行には、こまめな

				情報収集など継続した課題もあり、より適切な運行に向け努めていきたい。 ・特に近年多い自然災害発生時の迅速かつ適切な対応については、各部署・銚田二高・バス会社と連絡を密にして対処した。
渉外	・コロナ禍における状況の変化に対応した事業の遂行	・評議員会理事会や後援会総会、生徒指導委員会総会などの事業報告や承認の可否について、封筒や郵送によるアナログなものと、HPを始めとするデジタルなもので学校として可能な手段を用いて、会務を遂行する。 ・収束した場合、役員の方々を中心に協力して頂きながら可能な範囲で事業を行う。	A	・5月までは、郵送やHP（QRコード利用）などを使い、総会の決議を行うことができた。6月以降は学校再開に合わせ通常に近い形を目指したが、マナーアップ運動以外の行事を実施できなかった。さらに第3波により、後援会事業や高P 関連連事業のすべてが中止となった。 ・100周年の役割については、実行委員会ができたことにより明確になった。想定範囲内の遅れはあるものの、順調に進んで来ていたが、同窓会長の計報は極めて残念である。 ・役員定数の変更や附属中の保護者からの役員も決定できた。
	・渉外部としての、100周年事業の推進	・100周年（同窓会）事務局での渉外部の役割を明確にし、連携を図って100周年事業を進めていく。	B	
	・附属中も含めた後援会の構築	・後援会規約（会則）の改定を行うとともに、附属中の保護者の方から役員を選出する。	A	
事務	・施設設備の整備充実に努める。	・中、長期的な視点をもって、施設の長寿命化を図れるように整備充実に努める。	B	・台風等の大きな被害がなく大規模な修繕箇所は発生していない。 ・改修要望が強いトイレについては、来年度県予算で改修予定だが、不足が見込まれるので、百周年記念事業でも実施予定、施設の長寿命化にもつなげていく。
		・破損箇所、危険箇所等については速やかに補修等を行う。	B	
		・必要な施設設備で高額な予算措置を要する整備についてはすみやかに予算要求を行う。	B	
1年次	・基礎学力の向上	・各教科における課題への取り組みや各種テストを通じて義務教育段階の学習内容の定着度を検証し、実現可能な目標の設定と振り返りの指導等を通して、個々の生徒に応じた基礎学力の向上と学習習慣の確立を支援する。	B	・休校による学習の遅れはほぼ解消されたが、学習習慣がつけられた者とそうでない者との差が開かないように、今後ともきめの細かい学習支援が必要である。 ・マナーやモラルは比較的守られているが、スマートフォンの利用につい
	・自己管理能力の形成	・手帳の利用を習慣化させたり、生徒へのきめ細かな声かけや面談等を実施したりして、基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、マナーやモラルを大切にする態度を涵養し、人間関係形成・社会形成に欠かせない自己管理・自己抑制能力を形成する。	B	

	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解・社会理解の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間を中心とした課題解決型学習への取り組みを充実させて、自己理解・社会理解を促し、生涯にわたるよりよいキャリア形成の基盤を作る。 	B	<p>では引き続き指導を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 探究活動をスタートできたことは成果である。より充実した活動が出来るよう工夫したい。
	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感の発揚 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や特別活動への積極的参加等、自己肯定感につながるような充実した学校生活への取り組みを促す。 	A	
2年次	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 英語、国語で定期的に小テストを実施し、数学では少人数授業を展開し、基礎・基本の定着を図ることに努める。 模試において偏差値 48 未満の数の減少に努める。 	B	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒臨時休業及び分散登校による授業の遅れはかなり取り戻せた。しかし、学習習慣の差により、模擬試験や課題テスト等で思うような結果を残せない生徒もいる。普段から家庭学習に取り組むように今後も指導する必要がある。 新型コロナウイルス感染を恐れ、精神的に疲れている生徒もいるように見える。注意して見守りたい。 3年生になるまでの期間で可能な限り、受験生としての意識付けを行いたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> 授業第一主義を念頭に、予習→授業→復習の重要性を認識させ、最低家庭での学習時間を3時間と設定し、計画的に実施するための支援に努める。 	B	
	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談、進路ガイダンス、大学出張講義、職業講話、卒業生と語る会等のキャリア支援行事を通し、自己理解・社会理解に努め、進路目標の早期明確化を支援することに努める。 	B	
	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団の規律を守り、わがままな言動を控え、個々が快適な環境を作るための責任を持つという意識の醸成に努める。特に、制服の正しい着こなし、挨拶の励行、時間厳守の行動を育成することに努める。 	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒に対し真摯に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の状況を丁寧に観察し、常に年次で情報を共有し、教育相談部及び保護者との連携に努める。 	B	
	<ul style="list-style-type: none"> 課外活動の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動、土曜講座、長期休業中の課外、校外でのボランティア活動等への積極的な参加を勧め、様々な機会の中で自己実現の一助とする。 	B	
3年次	<ul style="list-style-type: none"> 3年間の集大成として、進路実現を果たす。社会に貢献できる人間力(知・徳・体)を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 予習→授業→復習の学習サイクルを徹底し(授業第一主義)、第一志望合格に到達するための学力を養う。また、隙間時間を積極的に活用し、基礎学力の向上に努める。 家庭学習の短期的・長期的計画をたて、平日4時間以上を実践し、定期的に計画を振り返り、必要に応じて修正する。 課外(土曜講座・休業中の課外等)への積極的な参加をはたらきかけ、さらなる学力の向上に努める。同時に、全国模試を定期的に受験することで、全国における各自の学力を客観的に把握する。 進路実現に向けて随時面談を行い、第一志望の確認と現状把握を行い、必要に応じて学習計画の見直し等を行う。 模試結果を分析し、その情報を全職員で共有することで生徒一人一人に適切な指導が行えるように努める。そして、安易に第一志望を諦めることがないように支援体制の充実を図る。 進路指導室や図書室、ICTの積極的活用により、生徒が自ら進路情報を収集し、主体的に進路実現に向かう姿を養う。 	B	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 納得のいく進路決定をした生徒の割合が9割を超えた。 年間を通じて、休み時間にスマホに没頭するなど隙間時間の活用が不十分な生徒が見られた。 新型コロナウイルス感染症により学校での学びの機会が減少したが、生徒たちの自立と努力により、昨年度に匹敵する模試成績を収めることができた。 学校が指定した面談日以外に日常的に面談を行い、適切な進路指導を行うことができた。

		・時事問題に関心を持ち、社会の動向を読み解く力を養う。			<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルコンディションが不安定な生徒に対して、担任と養護教諭・教育相談部との連携により適切に対応することができた。 ・「品格」を備えることの必要性を継続して説いてきたことで、信頼されるに足る生徒が多く見られ、一定の成果を上げることができた。 ・部活動、生徒会、委員会など様々な組織に所属し、組織の一員として責任ある行動をとることができた。
		・規則正しい生活を心がけるとともに適度な運動により健康管理を徹底させる。特に、メンタルコンディションを安定的に保つため、随時面談を実施する。	A		
		・組織の中の一人であるという自覚を持ち、常に周囲への気遣いや思いやりをもつように努める。	A		
・銚田一高生としての誇りと自覚を持ち、地域・社会の中核となるべき人間性を育成する。		・「文武不岐」の伝統の下、部活動や学校行事に積極的に参加し、人と人との関わりを通しコミュニケーション能力や問題解決能力等を育む。	B		
		・様々な活動の中で、常に最上級生としての自覚を持ち、リーダーシップを発揮できるように努める。	B		

※ 評価基準 A : 大変良くできた B : 良くできた C : 普通 D : やや不十分 E : 不十分